

## 手賀沼におけるオオバン (*Fulica atra atra*) の ヒナの成長にともなう羽色の変化

斉藤安行

キーワード：オオバン、手賀沼、成長

オオバン (*Fulica atra*) は、①ユーラシア大陸の寒・温帯地域、日本、アフリカ大陸の北部、インド、マレー半島、②ジャワ島、③ニューギニア中・北西部、④ブルー島、オーストラリア大陸、タスマニア島に分布する (山階 1986) 水鳥である。各地域には、それぞれ① *F. a. atra*、② *F. a. lugubris*、③ *F. a. novaeguineae*、④ *F. a. australis* の各亜種が分布している (Howard & Moore 1991)。日本にはオオバン (*F. a. atra*) が分布し、主に北海道と本州中部以北の沼沢地で局地的に繁殖する (Brazil 1991、環境庁 1981)。

筆者は、1995年6月から8月にかけて、千葉県北部の手賀沼 (海拔5 m、東経140° 北緯35°) で繁殖したオオバン (*F. a. atra*) のヒナの成長過程を観察することができたので、写真記録をもとに、ヒナの羽色の変化について報告する。

### ●観察したオオバンについて

観察したオオバンは、手賀沼の湖岸から約10m沖に設置された人工的なマコモの植栽いかだ (写真1) の上で繁殖した一家族である。この巣の一巣卵数は7卵、うち5羽のヒナが巣立った。1995年5月31日に最初の1羽がふ化し、6月2日までに5羽のヒナ全てふ化した。

2羽の成鳥 (雌雄) と5羽のヒナで構成される一家族は、9月末まで人の与える餌 (食パン) に餌付いたため、近くからヒナの成長のようすを継続的に観察することができた。ふ化後15週目には、幼鳥の羽色は成鳥とほぼ同じになり、また家族群がくずれ単独で行動するようになった。

### ●オオバンのふ化直後のヒナと成鳥の羽色について

オオバンの成鳥 (写真2) は、計測値ではオスがメスよりやや大きく (Cramp 1980)、特にオスの額板は繁殖期に大きく発達する (Fjeldsa 1977) が、羽色は雌雄同色である。嘴と額板は白、体は全体に黒、次列風切羽の後縁は白色である。脚は全体的に黄色味がかった暗灰色、すねの部分は橙色である。足は暗灰色で弁足が発達している。虹彩は赤色である。

オオバンのふ化直後のヒナ (写真3) は、全身羽毛につつまれ、目が開き、歩くことができる早成鳥 (Precocial bird) である。顔・頭の裸出部以外は全身黒い綿羽でつつまれる。顔・頭部の皮膚は赤色、黒い毛状の羽毛がまばらに生える。両目の上の頭部の皮膚は

紫色である。額には、黒い毛状の羽毛の他に、赤いろう質の飾り羽がある。首の周りは、橙色の糸状羽でおおわれる。嘴は基部から鼻孔の先まで暗赤色、嘴の先端部は白色で黒い縁取りがある。脚・足は、ふ化直後は黒い関節部分以外肌色、その後数日で全体が黒色になる。足は弁足構造が見られるが、弁足部の皮膚が柔らかいため、ふだんは指にぴったり巻き付き目立たない。虹彩は、暗灰褐色である。

#### ●ふ化後のヒナの羽色の变化

ふ化後のヒナの羽色の变化は以下に示すとおりである。羽色に顕著な变化が現れた段階を追って示した。なお、一巢内のヒナを個体識別しなかったため、最初のヒナがふ化した日を便宜的に全ヒナのふ化日とし、この日を起点にふ化後の週を示した。また、羽色の变化とともにヒナの行動等に現れた変化を（ ）内に記した。

##### ① 1週目（写真4）

- ・ふ化直後（写真3）と羽色は同じ。

##### ② 2・3週目（写真5～6）

- ・首周りの橙色の糸状羽に換わって、白色の糸状羽が増加する。

（最初の育雛巣を確認：1995年6月11日）

##### ③ 4週目前半（写真7）

- ・嘴の中央部（鼻孔の先あたり）にうすい黒い帯状の模様が出る。全体的に、赤みがうすれ、先端部は肌色に変化。

- ・額の赤い飾羽は減少し、わずかに残る程度。

- ・後頸部に白い糸状羽が増加。

（ヒナは開放水面に頻繁に出るようになる：1995年6月21日）

##### ④ 4週目後半（写真8～9）

- ・嘴の鼻孔の先の黒い帯状模様の色がより濃くなる。

- ・「のど」から「ほほ」にかけて白くなる。

- ・胸部中央に白色の羽毛広がる。

##### ⑤ 5週目（写真10）

- ・嘴の赤みさらにうすれ、鼻孔先の黒色帯より先はほとんど肌色。嘴峰基部は黒色になる。

- ・額板部分の幅が広がる。

- ・頭部の裸出部はほとんど黒い羽毛でおおわれ、皮膚はほとんど見えなくなる。

- ・「のど」から「ほほ」にかけての白色域は顔全体に広がる。

- ・後頸部はほとんど白い糸状羽になり、橙色の糸状羽はわずかに残るのみ。

- ・胸部全体白くなる。

- ・翼に正羽まだ伸びていない。

- ・あしは黒色。弁足発達。

（新たな育雛巣確認：1995年6月30日）

##### ⑥ 6週目（写真11～12）

- ・顔の裸出部消える。

- ・嘴の鼻孔先の黒色の帯状模様が周囲へ広がります。

- ・後頸部の橙色の糸状羽消える。白い糸状羽も減少。

(ヒナが巣材を運び育雛巢の補強をする、ヒナの潜水確認：1995年7月6日)

⑦ 7週目 (写真13~18)

- ・ 嘴・額板、全体に黒色。嘴の先端部のみ肌色。
- ・ 後頸部の白い糸状羽が消える。
- ・ 風切羽伸び始める。筆毛状。
- ・ 「あし」は黄色がかった暗灰色になる。
- ・ 「あご」から「ほほ」にかけての白色部分はさらにひろがり、耳孔の後ろまで達するが、白と黒のコントラストは不明瞭になる。

(ヒナ、羽ばたきながら水面を滑走する：1995年7月15日)

⑧ 8週目 (写真19~20)

- ・ 額板と嘴の黒色味はうすれ、肌色の範囲が広がる。
- ・ 額板の厚みが増す。
- ・ 白い前胸部の中央部に黒い羽毛が広がりだす。

(親は給餌終了後、求餌するヒナを追い払う：1995年7月19日)

(ヒナは植栽イカダに付着した藻類をさかんにつついて食べる：1995年7月24日)

⑨・10週目 (写真21~24)

- ・ 額板の肌色味がうすれはじめる。
  - ・ 弁足は成鳥とほぼ同じ形態になる。
- (オス親風切羽換羽中で無飛力：1995年8月2日)  
 (メス親風切羽換羽中で無飛力：1995年8月7日)  
 (ヒナ全て飛翔可能：1995年8月7日)

⑩11・12週目 (写真25)

- ・ 額板と嘴の色がさらにうすれ、白色味増す。嘴の先半分にはやや黒味が残る。
- (オス親飛翔可能、メス親は風切羽換羽中で無飛力：1995年8月18日)  
 (親はヒナに給餌せず、別々に行動：1995年8月20日)

⑪13・14週目 (写真26~28)

- ・ 額板と嘴はほとんど白色。嘴の先半分には黒色味残るのみ。
- ・ 胸部から首にかけての白色部はさらに狭くなり、前頸部(のどの下)に部分的に残るのみ。

(オス親はヒナが近づくと追い払う：1995年9月3日)

⑫15週目以降 (写真29~31)

- ・ 額板の幅がややせまいことと嘴の先半分にはやや黒色味が残ること、のどの下に白色の羽毛がわずかに残ることのほかは、成鳥と同じ羽装になる。

#### 引用文献

- Brazil, M. A. 1991. The birds of japan. Christopher Helm, London.  
 Cramp, S. 1980. The birds of the western palearctic Vol. 2, pp599-610. Oxford, New York.  
 Fjeldsa, J. 1977. The coot and moorhen. AV-MEDIA, Denmark.  
 Howard, R. C. & Moore, A. 1991. A complete checklist of the Birds of the World. Academic Press. London.

- 環境庁. 1981. 日本産鳥類の繁殖分布. 大蔵印刷局、東京.
- 北島信秋. 1994. 手賀沼におけるオオバンFulica atraの繁殖生態. 山階鳥研報26:47-58.
- 斉藤安行. 1994. 手賀沼におけるオオバンFulica atraの営巣状況. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 3:15-25.
- 山階芳麿. 1986. 世界鳥類和名辞典. 大学書林、東京.

### Changes in Plumage with growth in Coot *Fulica atra atra* Chicks; Tega Marsh

Yasuyuki Saito

Coot *Fulica atra atra* is a common bird which breeds in the reed beds surrounding Tega Marsh. One family of coot became accustomed to artificial feeding (bread crumbs), and a photographic record was used to document changes in the plumage of five growing chicks. The chicks hatched in late May and early June, 1995, and observations continued until late September, after which the family unit dispersed. The results showed that the chicks attain full adult plumage by about the 15th week, at which time the parents begin chasing the chicks away.

**KEY WORDS:** Coot, Tega Marsh, development

Abiko City Museum of Birds. Kohnoyama 234-3, Chiba, 270-11, Japan



a



b



c



d

写真1 オオバンが営巣した植栽イカダと巣

注1. a オオバンが営巣した植栽いかだ

b オオバンの巣と卵 (1995年5月12日)

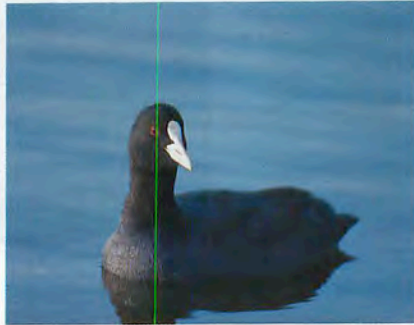
c 最初につくられた育雛のための巣 (1995年6月11日)

d 2回目につくられた育雛のための巣 (1995年6月30日)

注2. 植栽イカダは、千葉県による手賀沼の環境保全事業の一環として、試験的に設置されているもので、オオバンが営巣したイカダには、マコモが植栽されていた。



a



c



d



b



e

写真2 オオバンの成鳥

注. a 頭部

b 足

c 全身（黒い羽毛、白い嘴と額板、赤い虹彩）

d 翼（次列風切の後縁が白い）

e 尾脂腺（腰の尾脂腺はよく発達している）



a



b



d



c



e

写真3 ふ化直後のオオバンのヒナ。

注. a ふ化直後の巢内のオオバンのヒナ（b～cとは別個体）。

b 頭部：赤い皮膚が裸出、額には赤いろう質の飾羽、首周りに橙色の糸状羽。

c 足：黒。側面は黒味がかった肌色。足指に弁足構造が見られるが、柔らかいため、足指に巻き付いている。

d 背：頭部、頸部以外は黒い綿羽でおおわれ、背に橙色の羽毛がある。

e 腹：腹部は黒い綿羽で覆われるが、腹側部に白い羽毛がある。



写真4 1週目(1995年6月2日)



写真5 2週目(1995年6月12日)



写真6 3週目(1995年6月16日)

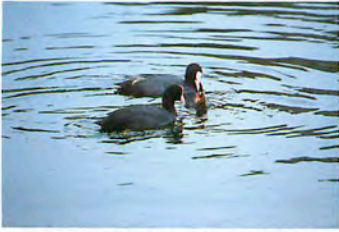


写真7 4週目(1995年6月21日)



写真8 4週目(1995年6月25日)



写真9 4週目(1995年6月27日)



写真10 5週目(1995年6月30日)



写真11 6週目(1995年7月6日)



写真12 6週目(1995年7月7日)



写真13 6週目(1995年7月9日)



写真14 7週目(1995年7月12日)

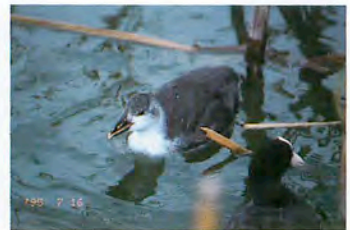


写真15 7週目(1995年7月16日)



写真16 7週目(1995年7月16日)



写真17 7週目(1995年7月18日)



写真18 8週目(1995年7月21日)



写真19 8週目(1995年7月22日)



写真20 8週目(1995年7月25日)



写真21 9週目(1995年7月28日)



写真22 9週目(1995年7月30日)



写真23 10週目(1995年8月2日)

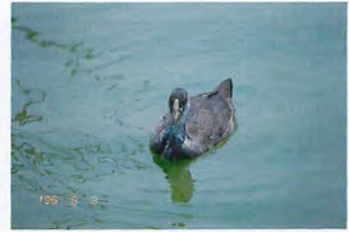


写真24 10週目(1995年8月3日)



写真25 12週目(1995年8月20日)

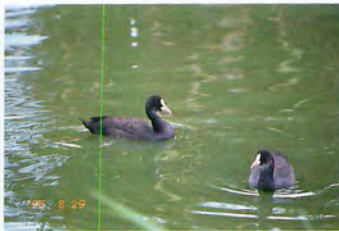


写真26 13週目(1995年8月29日)



写真27 14週目(1995年9月1日)

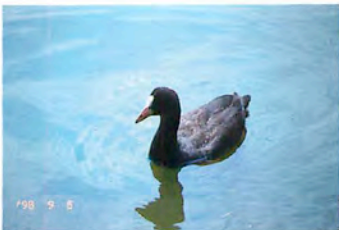


写真28 14週目(1995年9月5日)



写真29 15週目(1995年9月7日)



写真30 15週目(1995年9月11日)



写真31 17週目(1995年9月21日)

- 注1. 写真のオオバンは、千葉県北部の手賀沼で繁殖したもの。
- 注2. 1995年5月31日に最初の1羽がふ化し、6月2日までに5羽のヒナ全てふ化。
- 注3. 写真タイトル中の週は、ふ化開始日(1995年5月31日)からの経過週数を示す。
- 注4. ( )は、撮影年月日。